

日本再生

滋賀大学経済学部 近藤 豊将

遠くをはかる者は富み、近くをはかる者は貧す

二宮尊徳

バブル崩壊以降、日本は恒常的な不振にあえいでいる。少子高齢化、高止まりする自殺者数、格差の拡大、原発問題など、論点

は多岐にわたるが、なかでも、日本再生の要諦は経済にあり！と

いうことで、現下げんかの安倍政権でも経済政策がことさら重要視され

ている。そのような中で、「生産性」の重要性を訴える論調をし

ばしば見かけるが、それはもちろん故ゆえあつてのことである。

経済活動とは、財（やサービス）の生産、交換、消費に関連する人間の営みのことである。生産とは新たに財を生み出すことであり、消費とは生産された財の最終的な利用だ。生産された財は、多くの場合、交換により人手を換えて消費されることになる。周りを見渡してみればよい。あなたが生活の中で利用している財は、他の誰かにより生産されたものであるはずだ。

「経済活動とは、モノを売ったり買ったりすることや、会社で働くことではないのか」と思う方もおられるだろうが、それらは、ここでいう生産や交換に含まれる。会社で働くということは、自身の時間を労働サービスとして貨幣と交換することである（少なくともそういう面もある）。会社は、獲得した労働サービスを用いて生産活動を行う。喫茶店でコーヒーを飲むということは、貨幣と（誰かが生産した）コーヒーを交換し、それを消費することである。世の中では貨幣を媒介として様々な財が交換され、生産が消費に結びつけられているのだ（次々ページの図を参照せよ）。この生産、交換、消費のプロセスが、経済活動の基本的な流れである。

社会の経済的な豊かさは、（労働）生産性で決まる。以下に、この理論的事実を説明しよう。（労働生産性は、労働サービスを単位時間用いて生産される財の量で測られる。）

単純化のために、農業しかない社会を想定してみるとよい。仮に、社会全体で（社会の構成員全員の）生産性が二倍になるとどうなるか。同じだけの労働時間を投入して、二倍の農産物を生産できるようにするはずだ。結果、各個人がこれまでと同じ時間だけ働いて、二倍消費することが可能になる。大雑把おおざっぱに言って、物質生活が二倍豊かになるのである。もしくは、半分の労働時間で、これまでと同じ消費生活を満喫しつつ、余分に余暇を楽しむことができるようになる。

実際には、生産性が倍化されることによる社会的利益は、農作物の価格は一定のままです。所得が二倍になる、または、所得は一定のままです。物価が半分になるといった形（より現実的には、それらの中間の形態）で具現化することになるであろう。まるで夢のような世界ではないか。農業だけでなく、工業やサービス業など、多彩な産業を含むより一般の経済を想定したとしても、ここでの議論の本質的な部分は同様に考えることができる。これが、生産性の水準が社会の経済的な豊かさを規定することと、近年、経済停滞が長引く中でその重要性が強調されていることの理論的根拠である。

さて、上で、生産性が倍増された社会を「夢のような世界」と表現した。そのような世界は、説明の便宜上持ち出されただけで、我々の実益とは関係ない絵に描いた餅だろうか。実は、生産性は一年あたり二%ずつ上昇していけば、約三十五年で二倍になる。この事実は、対数を用いて容易に確認できる（次ページで、問いとその解答という形で説明している）。三十五年といえ、ほぼ一世代である。社会全体で一年あたり二%ずつ生産性が上昇していけば、今、生まれたばかりの子供が三十五歳の働き盛りを迎える頃、また、四十歳の中堅社員が後期高齢者（七十五歳以上）になる頃には、「夢のような世界」を実現できるのである。

社会全体で一年あたり二%生産性を上げるといえるのは、不可能

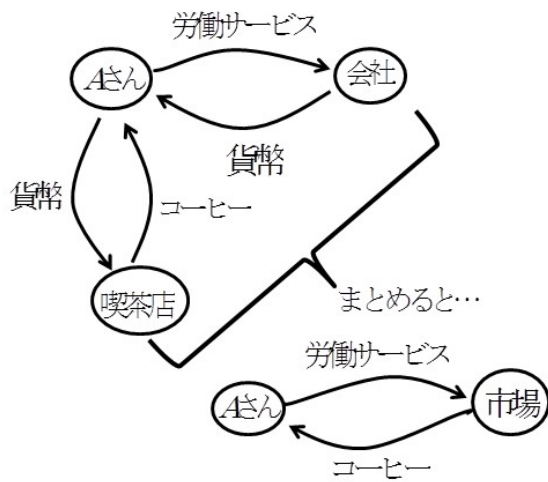
でもないのではないか。すべての職場でそれが達成できれば、社会全体でも達成できる。（厳密には、生産年齢人口の対総人口比率が、一定に保たれる必要がある。）そして、各職場での生産性上昇率は、私の実感では、職場にいる全員がそこに意識を向けるだけでもずいぶん違ってくるはずだ。

繰り返すが、各職場で一年あたり二%の生産性上昇を達成できれば、一世代を経る頃には社会の経済力は倍増する。そのために必要なのは、まずは個々人の心がけである。逆にいえば、もし自分に心得違いがあれば、自らが一世代後の社会的な富を半減させる元凶となってしまう。それが、計らずも、自分自身の老後の生活を脅かすことにもなるのである。次世代のために、また自身のためにも、そのようなことがないように気を付けたいものである。

国民一人ひとりが未来に目を向け、将来の社会を慮る態度を身に付けること。経済も生産性も大切だが、実はそれこそが、日本再生そのものなのかもしれない。

（平成二十六年二月十一日）

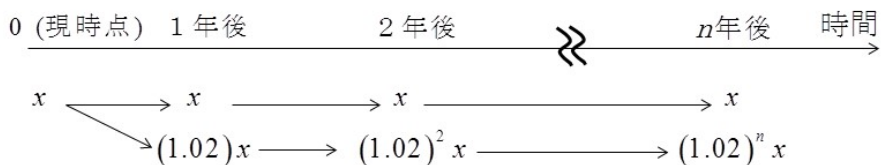
※生産性は、より広義には、社会全体が斜陽産業から成長産業へスムーズに資源を再配置する能力などを含む。



Aさんは、会社で働くことで、労働サービスを貨幣と交換する。会社は、労働サービスなどを用いて、何らかの財を生産する。

Aさんは、交換により得た貨幣を、喫茶店でコーヒーと交換する。そのコーヒー自体も、人間の手により生産されたものである。

このようにして、生産された財が、交換を経て消費に結びつけられる。したがって、生産力の増強は、豊かな消費生活の実現可能性を意味する。



問. 生産性は、その上昇率が2%の場合、何年後に一定の場合の2倍になるか。
 解答. 現時点での生産性をxとする。生産性上昇率が2%の場合、n年後に一定の場合の2倍になるとすると、上の図よりnは次の関係を満たさなければならない。

$$\frac{(1.02)^n x}{x} = 2, \quad \therefore (1.02)^n = 2$$

両辺の対数を取り、 $n \log 1.02 = \log 2$ を得る。したがって、

$$n = \frac{\log 2}{\log 1.02}$$

となる。関数電卓などを用いて計算すると、

$$n = 35.003$$

を得る。つまり、ほぼ35年で、生産性は2倍になる。(解答終わり)

